

大蔵海岸の魅力向上 目指すべき姿への提言生かし 産官学民共創で取り組む

問 大蔵海岸みらいプロジェクト・アドバイザリーボードからの提言に対する市の認識は。

答 本市は大蔵海岸の持つ魅力をさらに向上させ、世界一のビーチスポーツスポットを目指すため、令和7年度に外部有識者によるアドバイザリーボードを設置し、大蔵海岸の目指す姿や取り組むべきテーマ等の具体策の提言を受けた。今年度は、にぎわいの創出、ビーチスポーツ施策の推進、ネイチャーポジティブの推進の3つについて、ワーキンググループを立ち上げ、産官学民の共創で取り組む。今後



世界一のビーチを目指して

は、明石公園を含む明石駅周辺、明石港東外港、大蔵海岸各地区が相互に連携し、エリア全体の魅力向上につながるし字型のまちづくりを推進していきたい。

介護支援専門員への支援 研修制度や報酬改定の動向を踏まえ 引き続き制度の充実を検討

問 介護支援専門員を支援する市のさまざまな取り組みは評価するが、さらなる充実が必要と考える。市の認識は。

答 本市は介護支援専門員を確保するため、令和6年度から介護支援専門員継続支援給付金事業、7年度からケアマネジャー試験対策講

座を実施し、一定の成果を上げている。この

ような市独自の取り組みに加え、国への要望活動の成果として、国は介護支援専門員の5年ごとの資格更新制を廃止し、研修受講費負担が軽減された新しい体系移行の方針を示し

整備し多目的ホールを一時避難所として活用するなど防災拠点としての充実を図る。総事業費は計画変更前と同じ約16億6千万円、補助金活用により市の実質負担額は約4億6千万円、維持管理費も当初の計画どおり年間3千万円程度を見込んで

旧市立図書館跡地の 地域交流拠点施設整備 計画変更の内容は

問 旧市立図書館跡地における地域交流拠点施設整備および市道明石中央63号線の歩行者空間整備に関する予算は、3月議会では修正案が可決された。6月議会でも再提案された変更内容について聞く。

答 旧市立図書館跡地については、書庫として利用していた地下室を防災備蓄倉庫とし、エレベーターを新設する。また、非常用自家発電設備を



明石東部の新たな防災拠点へ

あかし里親 100%プロジェクト 子どもたちの幸せのため さらなる普及啓発の強化へ

問 10年目の節目を迎えたあかし里親100%プロジェクトについて市の見解を問う。

答 本市は、里親を必要とする子どもたちが望ましい環境で生活できるように里親推進に取り組

就学前施設の安全対策 より効果的な体制の構築を 市の認識と今後の取り組みは

問 就学前施設の防犯体制について聞く。

答 公立幼稚園は小学校の敷地内にあり、小学校警備員が常駐配置され防犯カメラ等が設置されている。一方、保育所や認定こども園は、巡回警備を行っているが施設数の増加により、

障害者や高齢者の移動支援

利便性向上に向け条件緩和できないか

問 障害者優待乗車券の福祉タクシー利用券と

通院支援タクシー利用券を実態に合わせ、使

いやすくてきないか。

答 福祉タクシー利用券は、障害等のある人、通院タクシー利用券は、65歳以上の要介護認定を受けている人に交付しており、1カ月あた

り500円券を4枚、年間2万4千円分を交付している。定期的な社会参加や通院の機会を確保するため、1乗車2枚までの利用としている。利用者から利

用枚数の上限撤廃や発着条件緩和等の意見があるため、他市への状況調査やアンケート調査を実施している。今後は、アンケート調査等の結果を分析し、

障害者や高齢者が安心して円滑に外出できるよう、ICカード化等の手法を含めた在り方について総合的に検討していく。

議員ふもやま話

JUST KEEP BUYING

自動的に富が増え続ける「お金」と「時間」の法則
ニック・マジュリー 著 児島修 訳
ダイヤモンド社

平成に話題となった『金持ち父さん・貧乏父さん』がお金の「考え方」を教えてくれた本なら、『JUST KEEP BUYING』は、お金の「増やし方・続け方」を教えてくれる本です。

特別な資産や才能がなくても、少額から始められる資産形成をデータに基づいて分かりやすく解説しています。人生を豊かにするためには、お金について正しく学ぶことも大切です。将来への不安がある今だからこそ、多くの方に読んでいただきたい「令和のお金の教科書」です。

私の推し本

手話言語の普及へ

手話体験教室

全小学校教育を実施を

問 手話言語・障害者コミュニケーション条例制定後の取り組み状況と今後の施策を聞く。

答 本市は、平成27年度に施行した同条例に基づき、タブレット端末を利用した遠隔手話通訳や手話動画による情報配信、電話リレーサービス手話リンクの導入など、さまざまな施策に取り組んできた。

援専門員の経済的負担等や、9年度に実施予定の介護報酬改定の動向を注視しながら、より一層、効果的な施策を検討していく。

今後も引き続き、手話言語の普及啓発やコミュニケーション支援に努めていく。

また、特に市立小学校で実施する手話体験教室は、児童が障害のある人への理解を深め、手話を通じ、他者と多様な形で関わる大切さを学ぶ人間関係づくりの面でも意義の大きい学びの場である。今後は主に4年生の総合的な学習の時間に取り入れられるよう努め、全28小学校で手話体験教室が実施できるよう取り組んでいく。